

「世界そして日本を青色に！-いのちの輝き 手話言語に光を-」 市民、地域、社会をひとつにチャレンジプロジェクト

趣旨：

毎年、9月23日は「手話言語の国際デー」です。

手話言語の国際デーは、2017年12月19日に国連総会で決議されました。決議文では、手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国が社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進するとされています。

手話言語の国際デーが制定されてから今年で5年目になります。今年、世界ろう連盟は2022年の国際手話言語デーに合わせて、「手話言語にブルーライトを当てよう」イベントを立ち上げました。

このイベントでは、2022年9月23日にすべての公共の場所、ランドマークや公共施設、官邸、庁舎、市庁舎などを青色でライトアップするよう呼びかけています。

このイベントを通して、世界、市民、地域、社会をひとつにし、また各国の手話言語を支援し、世界のろう者たちとの連帯を示すことを目的にしています。

全日本ろうあ連盟は、手話言語によるコミュニケーションや情報提供が保障される環境を実現するために、70年以上取り組んできた歴史があります。

2006年に国連で採択された障害者権利条約にて「言語に手話が含まれる」ことが明記されたことをきっかけに、2010年より「手話言語法」制定を求めて取り組み続けています。

この世界ろう連盟のイベントを機に、全日本ろうあ連盟は「**世界そして日本を青色に！-いのちの輝き 手話言語に光を-**」市民、地域、社会をひとつにチャレンジプロジェクトを行います。

ご賛同いただける自治体や民間等に、全国各地の名所や施設を9月23日に青色でライトアップしてもらうことで、市民、地域、社会が一つとなって、「手話が言語である」ことへの認知を広めていきます。

私たちろう者は、生活のあらゆる場面で手話言語を使うことが保障されることで、きこえる人ときこえない人がともに暮らせる、人権と平等が守られた共生社会を実現することができるのです。

チャレンジプロジェクトの推進について：

きこえる人ときこえない人がともに暮らせる人権と平等が守られた共生社会の未来を求め、近未来的なイメージがあるお台場周辺のライトアップを中心に、全国各地で同時にライトアップをすることで、大きなインパクトを人々に与え、手話が言語であるという認識を広めていきたいと考えています。

当連盟の関係団体である「手話を広める知事の会（全都道府県知事が入会）」、「全国手話言語市区長会（606 市区長、12 町村長が入会）」にも協力を依頼する予定です。

また、当連盟ホームページにも「プロジェクト公式ページ」を設置し、ご賛同いただける自治体や民間等からのプロジェクト参加申請を受け付け、公表していきます。

ライトアップについて：

ライトアップの日時や基準は以下の通りとします。

- 日時：2022年9月23日（金・祝） 日没15分後～
※終了時間はその施設等の規定による
 - ライトアップ色：青色（原則として#007EC4、若しくはこの色に近いものとする）
 - 点灯間隔：原則として常時点灯とする
- ※ご賛同いただける自治体や民間等にお問い合わせの趣旨から、ライトアップに係る費用等はその自治体や民間等の負担となります

賛同を示す周知方法について：

ご賛同いただき、ライトアップをされた場合、その自治体や民間等の SNS にて以下の通り周知を行うことをお願いします。

- 8月1日までにライトアップを行う施設名称およびその写真、ライトアップの時間、住所、アクセス等を当連盟に提供するものとします。なお、当連盟はその提供された情報をプロジェクト公式ページに掲載し、周知を行います
- ライトアップされた写真や動画は、ハッシュタグに「#IDSL」と「#BlueLight」「手話言語に光を」をつけて、「@jfd.or.jp」、「@Wfdeaf」をタグ付けしてソーシャルメディアに公開してください
- ライトアップされた写真や動画は、終了後に当連盟にご提供ください。プロジェクト公式ページにて報告及び当連盟の広報媒体、書籍等に掲載することがあります